

# あなたは羽曳野の

# ALTを知っていますか？

羽曳野市では、市長が掲げる重点施策の一つとして英語教育に力を入れており、「英検IBA」への補助事業なども行っていますが、その中でも市内の小中学校で教員と共に子どもたちの指導に当たるALT（外国語指導助手）はその施策の大きな柱です。ALTは、単にネイティブスピーカーとして英語を教えるだけでなく、子どもたちが楽しく英語を学習できる授業プランも提供するなど、子どもたちの興味関心を引くための教材作成や、授業外でも子どもたちの指導につながる様々な活動をしてきています。

## 「英語って、楽しいー!」

教室で子どもたちの笑顔が広がります。羽曳野市のALT（外国語指導助手）は、ただの英語の先生ではありません。ALTは、教科書に載っている英語を教えるだけでなく、子どもたちに「英語は楽しい」と感じさせる魔法のような存在です。歌を歌いながら、ゲームをしながら、子どもたちは知らず知らずのうち

に英語を自分のものにしていきます。

羽曳野市のALTは、他の市町村に比べてもその在任期間が長く、学校や地域の一員として深く根ざしています。ALTが持つ温かい人柄と、どんな時でも子どもたちに親身になって接する姿勢が、他の地域からもうらやましがられる理由です。ALTが教室に持ち込むのは「生きた英語」。発音やイントネーションを身近に感じることができただけでなく、英語でのやり取りを通じて、子どもたちは実際の会話を体験することができるのです。

そして、ALTは単なる英語の指導者にとどまりません。授業の中で発揮されるその工夫やアイデアは、オリジナルの教材を作りだし、どの授業も新鮮で楽しいものばかり。小中学校での授業だけでなく、要望があれば幼稚園や地域のイベントにも参加し、サンタクロース役を務めることもあります。ALTは、英語を教えることだけでなく、地域とのつながりを大切にし、子どもたちがどんな場面でも英語に触れる機会を提供してくれます。





## Do you know the ALT in Habikino?



ALT: 外国語指導助手  
Assistant Language Teacher  
通称 ALT

「ちょっといいが  
そこにある」  
羽曳野



羽曳野市のALTは、地域の教育に「ちょっといい」を創り出しています。ALTが教室に持ち込むのは、単なる英語の授業ではなく、子どもたちの心を揺さぶる「ちょっといい瞬間」。その「瞬一瞬間」が、子どもたちに新しい視野を与え、国際性や多様性を自然に感じさせてくれる。それが子どもたちの心を豊かにし、未来を広げていく力となっていきます。

何年も経って卒業した後でも、街で偶然再会したとき、子どもたちは嬉しそうに「先生！」と駆け寄り、あの頃の思い出と一緒に振り返ります。その一言に、ALTがどれほど子どもたちの心に根付いているかが感じられます。英語を学んだ時間が、ただの知識の習得で終わるのではなく、異文化への理解や、自分を表現する喜びを与えてくれたことが、彼らの心に深く刻まれているのです。

その優しさや工夫は、子どもたちだけでなく、学校の先生や地域の人々にも強く伝わっています。学校内での授業に加え、クラブ活動や地域の行事にも参加する人もいて、子どもたちにとっても地域にとっても大きな影響を与えてくれています。

「英語教育の充実」を重点施策に掲げる羽曳野市で活躍するALTたちが、その活動を通して、子どもたちとどんな絆を築いているのか。授業で心がけていることや、地域との交流エピソードなども交えながら、彼らがどれだけ子どもたちの成長に寄り添っているかを語り合ってもらいました。



## 対談：羽曳野に根差すALTたちの想い

インタビュアー：村田明彦（羽曳野市教育委員会教育長）

村田教育長：本日はお集まりいただき、ありがとうございます。皆さんは羽曳野市の英語教育にとって、欠かせない存在です。地域の子どもの学びをサポートしているその姿勢に、私たちも心から感謝しています。今回の広報誌では、皆さんが持つ魅力を多くの方々に伝えたいと思っています。まず最初に、皆さんが子どもたちと接する中で心がけていること、またコミュニケーションのポイントについてお聞きしたいです。

### 英語教育の心構え：

#### 子どもたちとの信頼関係作り

サム：僕が心がけているのは、『間違いを恐れないこと』ですね。完璧を目指すあまり、失敗を避ける子どもたちも多いと思います。でも、いつも完璧であったら、何も学ばません。間違いをすることこそが、成長への第一歩なんです。『まずは、喋ってみよう!』という気持ちを大切にしています。

ジョージ：僕は、生徒たちから『英語は嫌いだけど、ジョージは好き』と言われることがあって、それが嬉しいんです。英語の授業だけじゃなくて、僕とのコミュニケーションを通じて、外国の人と話すことに興味を持ってもらえるきっかけができれば、それが一番の喜びです。

ペイズリー：完璧な英語を使うことにこだわりすぎると、結局、コミュニケーションが取れないことがありますよね。だから、ジェスチャーや優しい言葉を使って、相手との繋がりを大切にしています。言葉が通じなくても、気持ちが伝わればそれでいいんです。

ジョニー：授業の中で大事なのもちろんですが、実は休み時間のわずかな10分間が、子どもたちにとってはとても大きな意味を持つことに気づいたんです。その短い時間の中で、普段の授業では見せない素顔や、やる気を引き出すことができます。

### 子どもたちとのエピソード：

#### 日々の交流と感動の瞬間

村田教育長：皆さんのお話を聞いていると、子どもたちとの距離の縮め方や心を通わせるコツが見えてきますね。それでは次に、皆さんが実際に体験した、子どもたちとのエピソードや地域との交流についてお聞かせいただけますか？

サム：ある日、コンビニで20代くらいの卒業生から『サム、久しぶり!』と声をかけられたんです。彼が小学生だったころ、僕が教えていた子どもなんです。こうした瞬間に、自分たちが地域に根付いていると実感できるんです。

ペイズリー：中学1年生の生徒から『You are my mom』と言われてたり、手作りのシールをあげたら『Wow!』と喜んでくれたりすることも。小学生が電車でじーっと見つめてきて、

来日 12 年目



Sam

サム (Sam) イギリス出身

完璧な英語よりも、「伝えようとする自信が大切」が指導のポイント。「国際的な視野」を育てるために、子どもたちに異なる文化を学ぶ機会を提供したいと考えています。

後で『電車で会ったよ』と報告してくれる姿が本当に可愛いです。

ジョニー：授業の初めはシャイだった子が、学期の終わりには『ジョニー！』と笑顔で声をかけてくれるようになるのを見ると、すごく感動しますね。言葉だけじゃなくて、子どもたちが心を開いてくれる瞬間が本当に嬉しいんです。

ジョージ：実は、僕は和歌山に住んでいるんですが、地域にも積極的に関わるようにしています。例えば、消防団に入ったり、イノシシ対策のために罾の免許を取ったりしています。地域の高齢者の方々に頼まれて、少しでも役に立てることが嬉しいです。

### 羽曳野の魅力：

#### 地域の温かさと文化

村田教育長：皆さんが子どもたちや地域にどれだけ愛されているか、よくわかりました。さて、羽曳野市について

来日 7 年目



Jonny

ジョニー (Jonny) ニュージーランド出身

子どもたちの興味がどこにあるかを考えてレッスンを作るようにしています。授業だけでなく休み時間の交流が子どもたちに大きな影響を与えることに気づきました。

来日 16 年目



George

ジョージ (George) アメリカ出身

地域に貢献したいと考え、農業もやり地元の消防団に入ったりもしています。英語のみではなく異文化交流の重要さも子どもたちに伝えたいと思います。

のイメージはどうでしょうか？どう感じていますか？

一同：フレンドリーで素敵なコミュニティです！みんなが温かく迎えてくれて、美味しい焼肉も楽しめるし、ぶどうの産地としても有名ですね。歴史的にも、古墳や神社があって、文化的にも豊かです。羽曳野はとっても素晴らしい場所です！

### 未来へのメッセージ：

#### 子どもたちへ、そして次世代へ

村田教育長：最後に、羽曳野市の子どもたちへのメッセージをいただけますか？そして、今後の展望についても教えてください。

ジョージ：Always have fun in English! 英語は楽しむものです。言葉を学ぶことで世界が広がるので、楽しんで学んでください。

来日 8 年目



Paisley

ペイズリー (Paisley) アメリカ出身

アートが好きなので美術クラブなど課外活動にも参加しています。子どもたちとの交流が何よりも楽しいです。

ロン：一緒に頑張れば、何でもできると思います。僕も日本語を勉強しているので、みんなと一緒に頑張りたいです！

ペイズリー：英語だけじゃなく、いろいろな国や文化について学んでほしいです。それが自分の考え方や生き方を豊かにしてくれると思います。

マーティン：一緒に英語を楽しんで、どんどん成長していきましょう！学ぶことは楽しいことです。

村田教育長：本当にありがとうございます。皆さんの存在が、羽曳野の子どもたちの世界を広げ、彼らの未来に大きな影響を与えていることは間違いありません。これからもよろしくお願いします！

来日 4 年目



Ron

ロン (Ron) アメリカ出身

子どもたちには新しい場所に行ったり、新しいことに挑戦したり、自分の視野を広げる経験をしてほしいと思います。そのお手伝いができることを光栄に思います。

来日 3 年目



Martin

マーティン (Martin) イギリス出身

子どもたちが私の文化や英語について何でも聞けるような環境を作りたいと思っています。その興味が授業の進行に繋がっていくと考えています。

## ALT たちの情熱が生み出す、夢のような時間

— 「はびきの英語ドリーム・フェスティバル」へ向けた熱い想い—



羽曳野市の小学校や義務教育学校の5・6年生を対象に、英語に親しみ、楽しさを感じることを目的とした「はびきの英語ドリーム・フェスティバル」は、3年前から開催されています。このイベントの最大の力は、ALT たちの情熱とエネルギーです。教育委員会と連携しつつ、ALT たちが自発的に、全てのアクティビティの企画・運営を行っています。

ALT たちは、毎年イベント後には次の年の計画を始め、準備段階では、ALT たちが集まり、アイデアを出し合ってワークショップやアクティビティを練り上げます。どうすれば子どもたちが「英語を使ってみる、しゃべってみる」楽しさを実感できるか、ALT たちはひとつひとつ考え抜いていきます。彼らの情熱は、フェスティバル当日、子どもたちが目を輝かせながら英語で楽しむ姿に表れています。

「はびきの英語ドリーム・フェスティバル」が目指すのは、単なる英語力の向上ではなく、子どもたちが新しい世界に触れ、自信を持ち、夢を抱きかけを作ること。このイベントを通じて、英語が楽しく、世界とつながる手段であることを知り、未来に向けてワクワクする気持ちを抱くのです。



## 子どもたちの心に英語の扉を開く

サムの情熱

ALT のサムにとって最大の喜びは、子どもたちが英語に興味を持ち「授業が大好き」と言ってくれる瞬間です。小中学校の9年間を通じて生徒の成長を見守る彼は、かつての教え子から「授業が楽しくて英語専攻に進んだ」と報告を受けた際、自身の活動が誰かの人生にポジティブな影響を与えていることに深い感動を覚えました。

彼の授業は単なる語学指導に留まりません。身近なトピックを通じて異文化を学び、同時に自国の文化を発信する力を養うことで、国際的な視野と多様性を尊重する心を育てています。また、休み時間や部活動などの授業外でも積極的に交流し、スポーツを通じて生徒との信頼関係を深めています。

温かなコミュニティに支えられた羽曳野市での経験は、サムにとっても特別な宝物です。「英語学習はワクワクする旅だ」と子どもたちが感じてもらえることを願い、彼は今日も情熱を持って教壇に立っています。



## 世界を広げてくれる 一番身近な外国人

ALT のみんなは子どもたちとの交流を特別な機会とし、動画活用などで学びの動機付けを工夫してくれます。ALT の文化的背景や細やかな配慮が、子どもたちの英語への壁を下げ、世界を身近にする一助となっています。



西浦小学校 / 白鳥小学校  
恩地先生

## ALT の先生が 子どもたちの心を開く

ALT は英語を教えるだけではなく、異文化や人との関わり方を伝える存在です。言葉の壁を越えた交流を通じ、子どもたちは世界と繋がる喜びや心を通わせる大切さを学びます。そのワクワクが、大きな成長の糧となっています。



古市小学校 / 古市南小学校  
武田先生



## コミュニケーションの楽しさを伝えたい ペイズリーと子どもたちの絆

ペイズリーは ALT として、単に英語を教えるだけでなく、子どもたちに「コミュニケーションの楽しさ」を伝えたいと願っています。彼女は、完璧な言葉ではなく、思いを伝え合うことを大切にしています。「少し日本語が混ざっても、心が繋がって笑顔が広がるのが一番大事」と語ります。

授業で最も嬉しいのは、恥ずかしがりながら質問してくれる子どもたちの姿です。「子どもたちの好奇心が恥ずかしさを超えて話しかけてくれる瞬間が本当に嬉しいです。」教室外で声をかけてくれる子どもたちも、彼女にとって大きな喜びです。

ある日、久しぶりに元生徒と再会した際、その生徒がペイズリーの手作りシールをまだペンケースに貼っているのを見て、胸が熱くなったと言います。その生徒は、英語が苦手だったが、ペイズリーの留学やホームステイの話聞き、「高校に入ったら英語を頑張ろう」と決心したそうです。ペイズリーにとって子どもたちと心を通わせることが、何よりの喜びになっています。



## 異文化共生を体現する ALT

### ジョージの挑戦

ジョージは、地域に溶け込み、子どもたちに異文化の大切さを伝える真の「多文化共生」の ALT です。地域貢献のために地元の消防団や農協、猟友会にも参加し、地域との絆を深めています。住民同士の助け合いが根強い日本の地方で、彼は自分の役割を大切にしています。日本語を学ぶことは、ジョージにとって大きな挑戦でしたが、地域活動を通じて言葉の壁が薄れ、より多くの人々と深くコミュニケーションが取れるようになったと感じています。

ジョージの授業は、単に英語を教えるだけでなく、生徒たちに異文化理解を深めてもらうことを重視しています。外国から来た自分の体験をシェアし、異なる文化や価値観を理解することの大切さを伝えています。「異なる文化に触れることは、子どもたちの世界を広げることだと思っています。言葉が通じないときでも、心で通じ合えることを子どもたちにも伝えてゆきたいです。」ジョージは、今後も子どもたちに「世界の一員としてどんな人ともつながれる力」を育んでいくことでしよう。



## 「Special Thanks to Andy」

### ～アンディに特別な感謝を込めて～



私たちの心の中に深く刻まれた一人の人物がいます。それがアンディです。昨年、母国オーストラリアに帰国したアンディ。しかし、彼が残した足跡とその無数の貢献は、今も私たちの心に強く息づいています。アンディは 25 年間、羽曳野市の ALT の中核として、教育現場で深い信頼関係を築いてきました。彼の新しい教材や指導法は、子どもたちに英語の楽しさと学ぶ喜びを伝え、数多くの未来を切り開きました。また、アンディは ALT たちの心の支えともなり、「英語教育の充実」を重点施策に掲げた羽曳野市の ALT 制度の発展に大きな影響を与えました。アンディの情熱と愛情は、これからも多くの ALT や教職員にとっても道しるべとなっていくことでしよう。